令和８年10月26日（月）
多賀城政庁復元整備に向けた説明会資料

多賀城跡の概要



宮城県多賀城跡調査研究所

多賀城とは

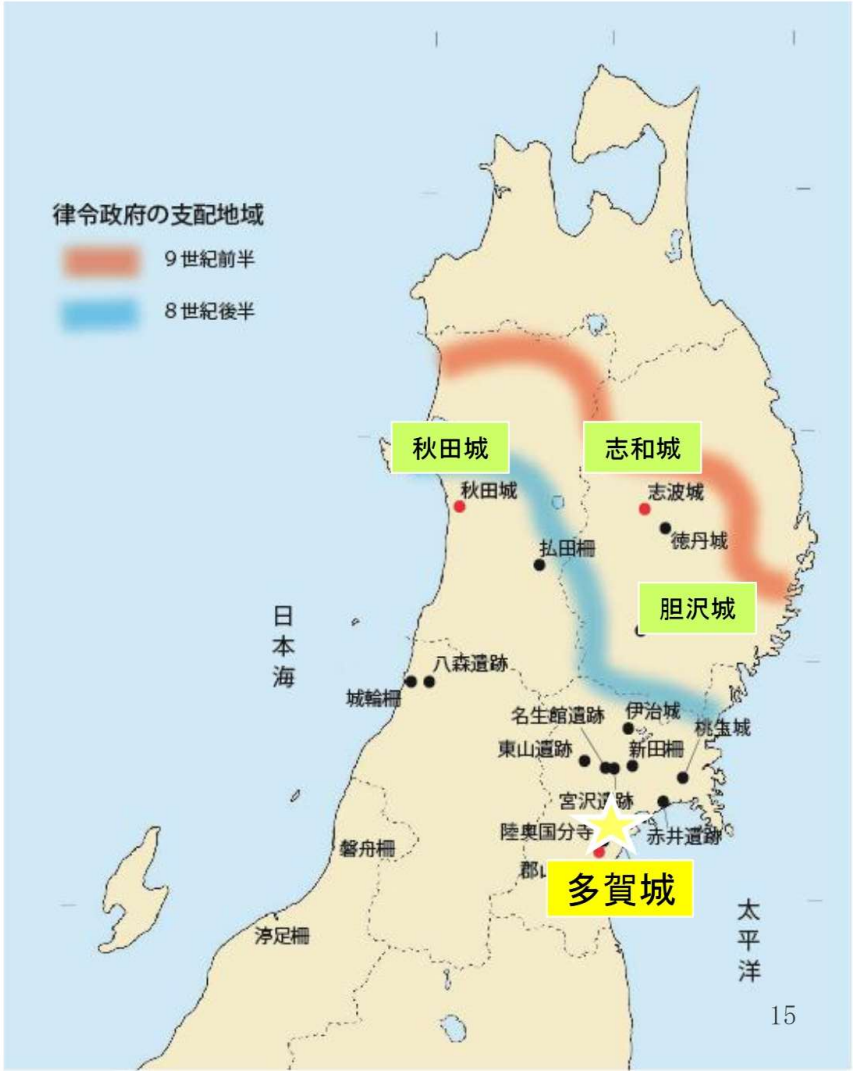
奈良･平安時代の陸奥国府

・奈良時代には軍事を司る鎮守府も置かれていました。
・国司の長官は陸奥国だけでなく出羽国も管轄。

東北地方の政治・軍事・文化・経済の最重要拠点

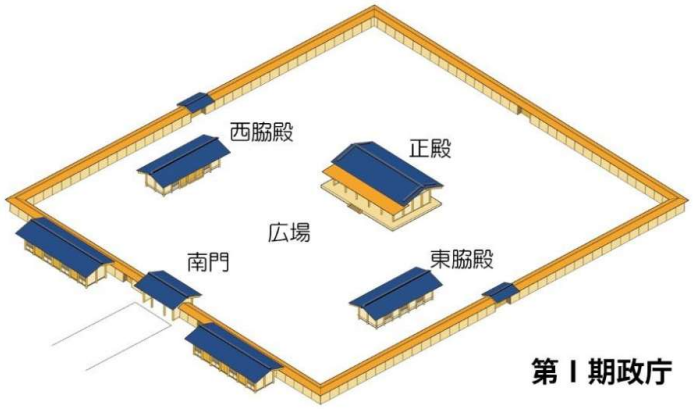
（参考）
多賀城
範囲：宮城・福島と岩手の盛岡市以南
期間：８世紀前葉から11世紀前半の約300年間

仙台藩
範囲：宮城と岩手南部、福島の一部
期間：1601～1871年の270年間



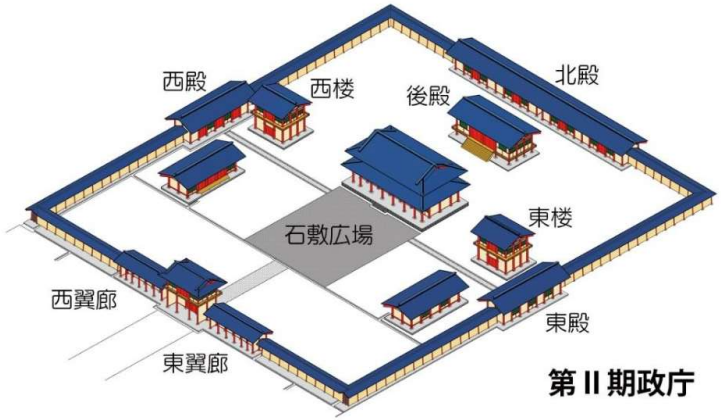
多賀城の年代

第Ⅰ期
養老・神亀頃
(717～728)～
8世紀中頃



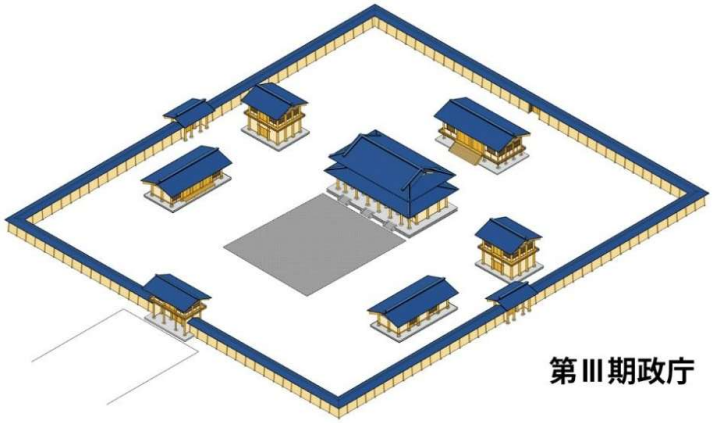
第Ⅰ期政庁

第Ⅱ期
8世紀中頃
～宝亀11年
(780)

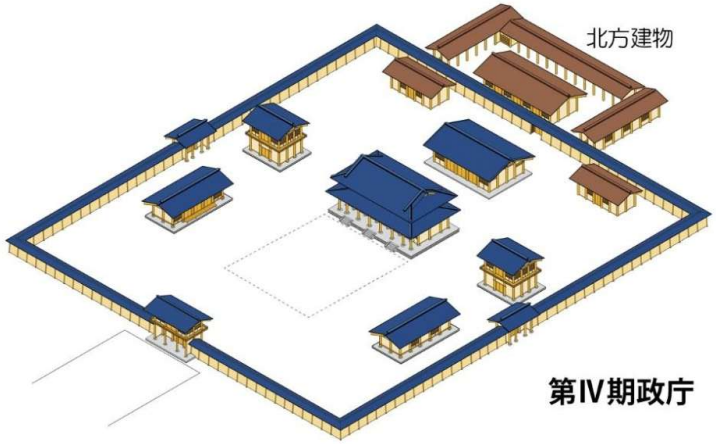


第Ⅱ期政庁

第Ⅲ期
宝亀11年～
貞観11年
(869)


第Ⅲ期政庁

第Ⅳ期
貞観11年～
11世紀前半



第Ⅳ期政庁

文献に記された多賀城の年代

① 神亀元年(724)
大野東人の創建　　「多賀城碑」

② 天平宝字６年(762)
藤原朝獦の改修　　「多賀城碑」

③ 宝亀11年(780)
蝦夷の襲来で炎上　『続日本紀』

④ 貞観11年(869)
貞観大地震　　『日本三代実録』



特別史跡

県内で１件、全国で64件


発掘前の政庁正殿（昭和38年）


多賀城碑覆屋

大正11年（1922）宮城県第１号の国史跡
昭和41年（1966）特別史跡に昇格

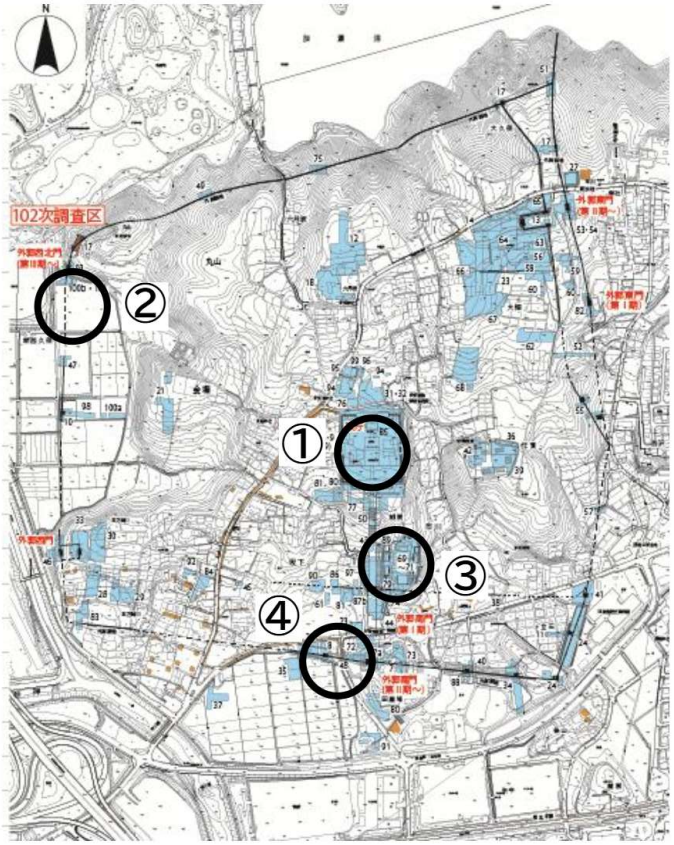
正式名称は「特別史跡多賀城跡附(つけたり)寺跡」
（多賀城跡、多賀城廃寺跡・館前遺跡・山王遺跡千刈田地区・柏木遺跡）

多賀城跡の調査研究のあゆみ

発掘調査







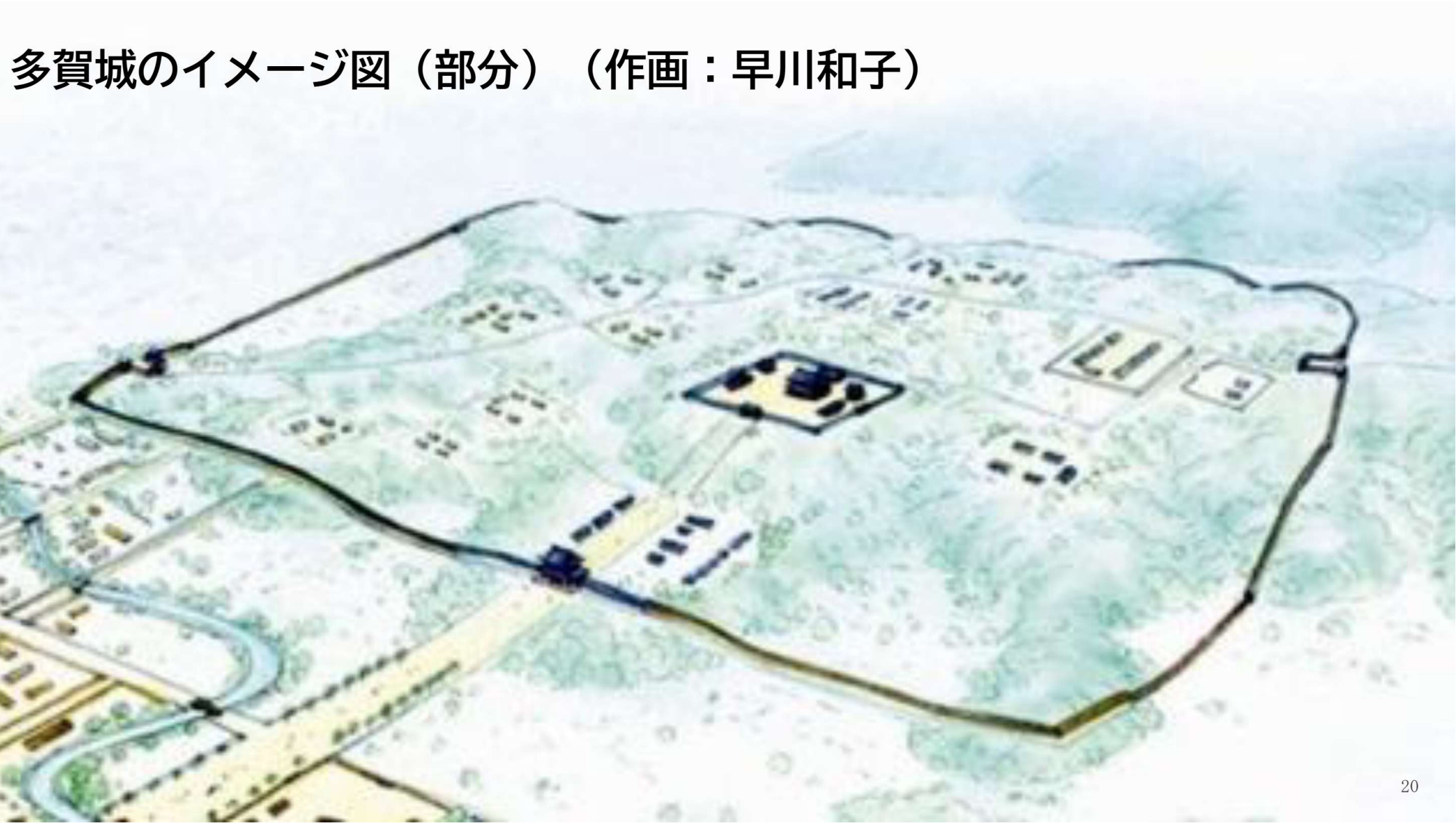




・多賀城跡は、不整な方形の範囲(東辺約1,050m、南辺約870m、西辺約660m、北辺約780m)を、築地塀や材木塀で区画し、ほぼ中央に政庁、周囲に実務を行う役所群があります。

・今年度は第102次調査を実施しており、これまで約12万㎡（総面積の約11%）を調査しています。

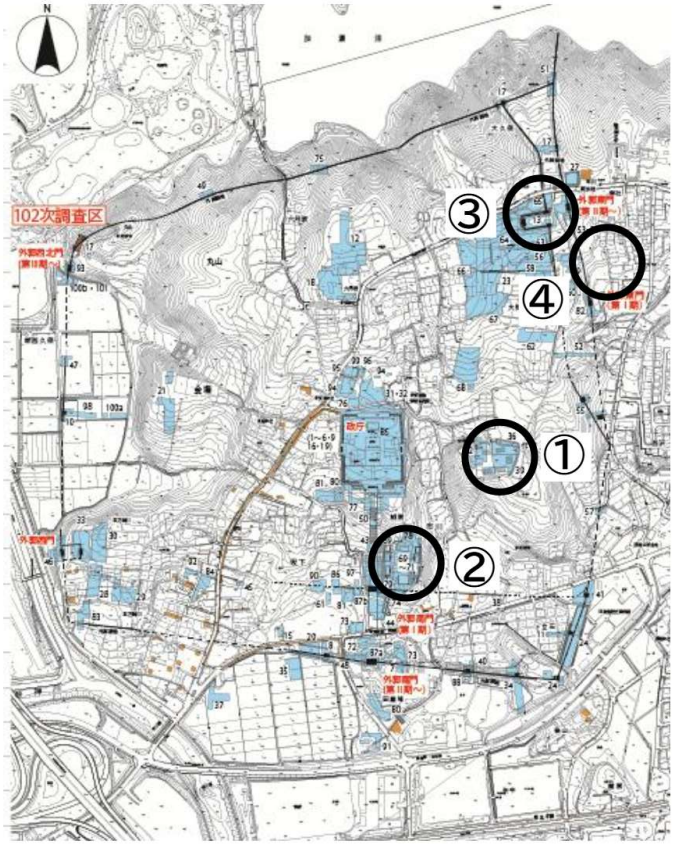
多賀城のイメージ図（部分）（作画：早川和子）



環境整備







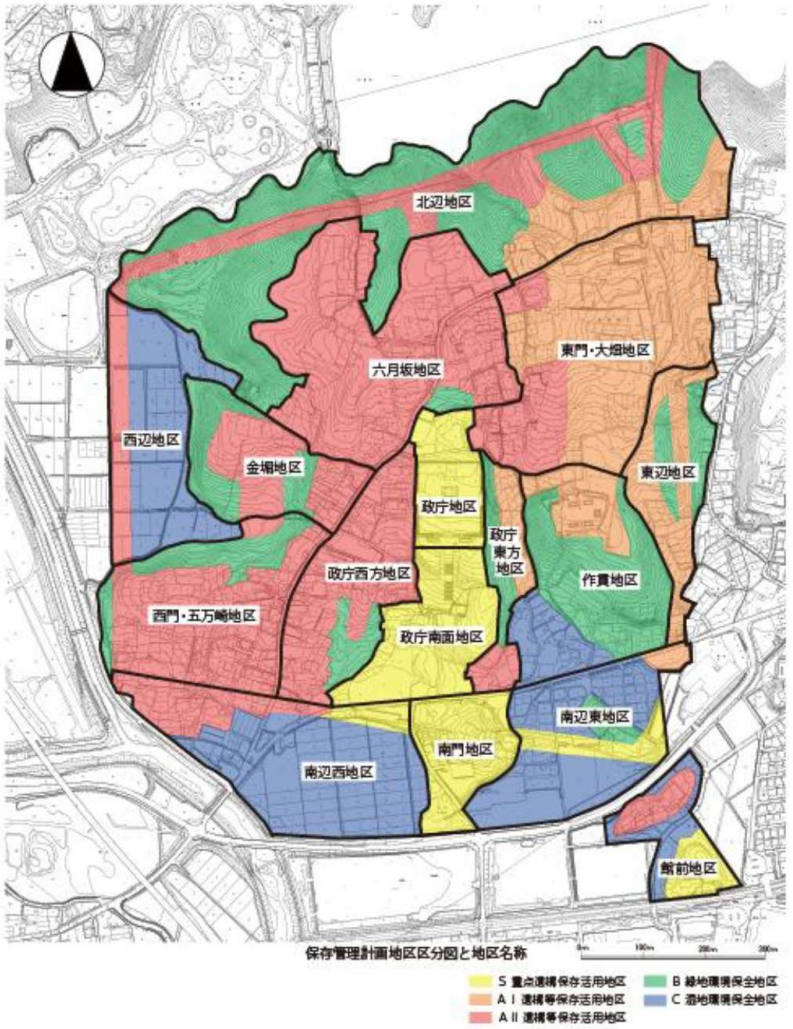




・発掘調査の成果に基づき、多賀城の価値を分かりやすく伝えるため、遺構の平面表示などの環境整備を実施しています。
・これまでに約17万㎡の環境整備を行っています。

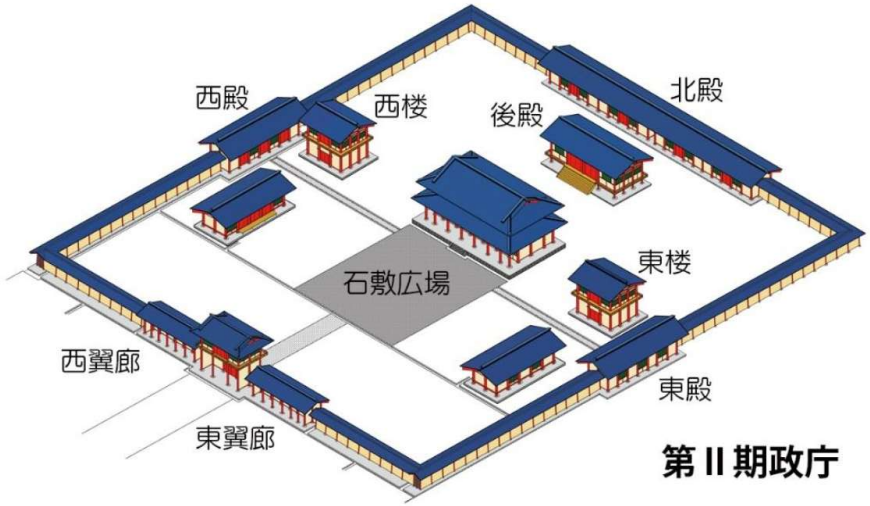
多賀城跡の中枢部の環境整備





政庁から多賀城南門は、特に重要な遺構が存在する地区で、適切な保存と積極的な活用が求められています。

多賀城の正面は第Ⅱ期で整備



第Ⅱ期政庁


政庁


南門と南辺


城前官衙と政庁南大路

政庁　　多賀城の中枢部で、重要な政務、儀式、饗宴などを行う場



政庁の範囲：東西103m、南北116m



第Ⅱ期政庁



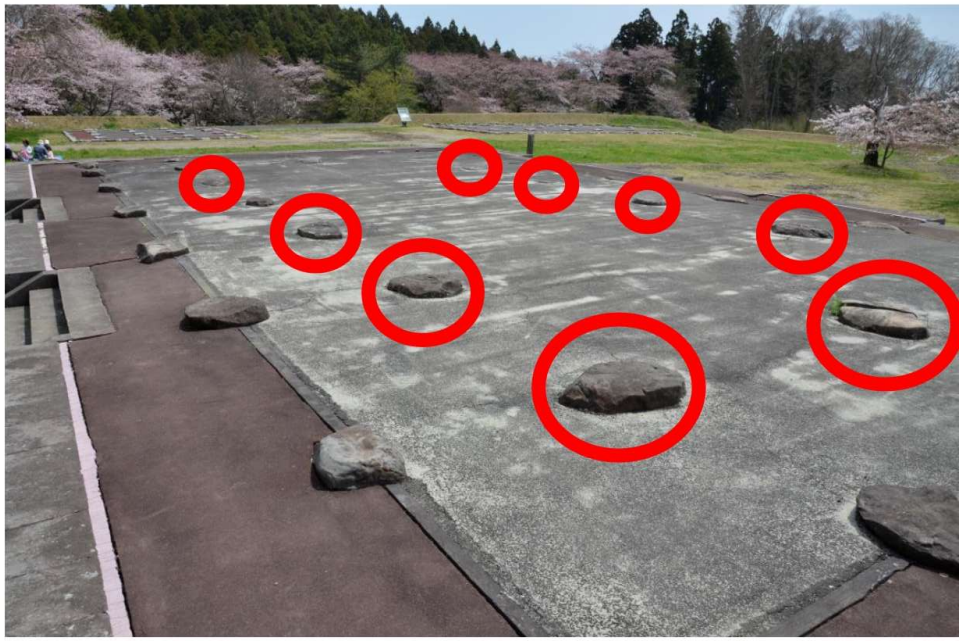
正殿での饗給の様子

政庁

当時の礎石などをそのまま利用した露出展示



正殿の発掘調査



奈良・平安時代の礎石

政庁復元整備に向けた課題

学術的・文化的価値が極めて高い多賀城政庁ですが、現状では以下の課題があると考えています。

①政庁の価値を理解する上での課題

②政庁の利活用上の課題

③政庁復元における学術的・技術的課題

↓

今後は建物復元の可能性を含め、現代にふさわしい史跡の管理・整備・活用のあり方を検討していくことが必要と考えています。

